

国際交流ひろば



鳥取市国際交流員

張日榮

(チャン・イルヨン)

韓国・清州市は鳥取市と同様に、長い歴史を持っています。今回は、清州市の歴史を市民のみなさんに紹介します。

清州は三韓時代（古代、朝鮮半島の南部に馬韓・辰韓・弁韓と呼ばれた三部族があった時代）には馬韓の地で、「娘子谷」と呼ばれ、三国時代（朝鮮半島に高句麗・百済・新羅と呼ばれた三つの国があった時代）には百済（紀元前十八年～六百六十年）に属し、

「上党県」と呼ばれていました。その三国を新羅が六百六十八年に統一します。新羅は、全国を九つの州に分け、さらに「小京」と呼ばれる軍事・地理的に重要な都市を全国に五つ置きました。清州はその一つである「西原小京」になり、七百五十七年に「西原京」と地名を改めました。そして高麗王朝時代の九百四十年に「清州牧」と地名を変え、州の長官である「節度使」が王朝より派遣されました。

しかし、朝鮮王朝時代にになると、水運が発達した忠州が交通の要地として浮上したため、清州は相対的に発展が停滞してしまいます。

ようやく千九百八年、觀察府（朝鮮王朝時代の地方官庁）が忠州から清州へと移転され、清州は中心地に返り咲きました。その後、千九百十四年に行政区域の統廃合により「清州面」と改称し、千九百三十一年には地方制度の改定により「清州邑」に、千九百四十六年には「清州府」になりました。

千九百四十八年、韓国政府が誕生し、翌年には現在の「清州市」になりました。以後、周辺地域と合併するなど発展を続けてきました。千九百八十九年には市の東部と西部に出張所（区役所の前段階）が設置され、千九百九十五年には出張所が区に昇格し、東部は上党区、西部は興徳区となりました。

一方、面積の拡大に伴って、人口も増え続けました。清州府から清州市になった千九百四十九年の人口は、六万四千人、千九百六十五年には、十二万九百人となり、千九百八十三年三十万五千人と増えつづけ、二千二年には、六十万人を突破しました。

これからも清州市は二十一世紀の韓国の中心都市として発展を続けて行くことでしょう。

清州邑城図（朝鮮王朝時代）



鳥取市国際交流プラザからのお知らせ

中国語講座受講生募集！

国際理解を深め外国の文化に親しむため、中国語講座を開きます。

- とき** 9月5日から毎週木曜日（全20回）
- ところ** 鳥取市国際交流プラザ
- 募集人員** 先着30名（初めての人を優先します）
- 講師** 廖汝幸さん（鳥取大学非常勤講師）
- 受講料** 無料（教材費は原則受講者負担）
- 応募方法** 住所・氏名・連絡先（電話番号）を記入のうえ郵送またはFAXで
月曜日は休館
- 応募期限** 8月25日（日）
- 応募先** 鳥取市国際交流プラザ（〒680 0947 湖山西一丁目512・ & FAX31 3253）